

エペソ書

第一章

神の旨によりてキリスト、イエスの使徒となれるパウ  
 口書をエペソに居る聖徒、キリストに在りて忠實なる者に  
 贈る。 預くは我らの父なる神および主イエス、キリストよ  
 り賜ふ恩恵と平安と汝らに在らん事を。

別行字

讃むべきかな、われらの主イエス、キリストの父なる神、彼  
 はキリストに由りて霊の諸般の祝福をもて天の所にて我  
 らを祝し、御前にて潔く玷なからしめん爲に、世の創の前  
 より我等をキリストの中を選び、御旨のまゝにイエス、キ  
 リストに由り愛をもて己が子となさんことを定め給へり。

聖書改譯原稿用紙

六 是その愛み給ふ者によりて我らに賜ひたる恩恵の榮光  
 に譽あらん爲なり。 我らは彼にありて恩恵の富に従ひ、そ  
 の血に頼りて贖罪、即ち罪の赦を得たり。 神は我らに諸般  
 の智慧と聰明とを與へてその恩恵を充しめ、御旨の奧義  
 を御意のままに示し給へり。 即ち時満ちて經綸に従ひ、天  
 に在るもの、地にあるものを悉くキリストに在りて一つに  
 歸せしめ給ふ、これ自ら定め給ひし所なり。 我らは凡ての  
 事を御意の計慮のまゝに行ひ給ふ者の旨によりて預め  
 定められ、キリストに在りて神の産業と爲られたり。 これ  
 風くよりキリストに望を置きし我等が神の榮光の譽とな

大或は五章の「愛を」

「と」を「陰」

「潔く」の下を「玷な」

「愛に」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

「に」と譯す。五

「愛をもて」

「を」を「しめん爲」

希望

悉く

別行二字

三 らん為なり。汝おんがもキリストに在りて真の言ことば即ち汝らの

救の福音をき、彼を信じて約束の聖靈にて印せられたり。

四 これは我らが受くべき嗣業の保証にして、神に属けるも

のの贖はれ、かつ神の榮光はかりに譽あらん為なり。

五 この故に我も汝らが主イエスに對する信仰と凡ての聖

徒に對する愛とを聞き、絶えず汝らのために感謝し、お

六 光の父、なんぢらに智慧と黙示との靈を與へて、神を知らし

七 汝らの心の眼を明かにし、神の召よびに關かはる望と聖徒に

八 ある神の嗣業の榮光の富と、神の大能の勢威の活動によ

聖書改譯原稿用紙

九 りて信ずる我らに對する能力の極めて大なることを知らし

十 め給はんことを願ふ。神はその大能をキリストの中に働

十一 かせて之を死人の中より甦よみがらせ、天の所にて己の右に座ませ

十二 しめ、諸般の政治、權威、能力、支配また當あたに此の世のみあら

十三 ず來らんとする世にも稱めふる凡ての名の上に置き、萬の

物をその足の下に服はせ、彼を萬の物の上に首として教會

十四 に與へ給へり。この教會は彼の身體からだにして萬の物をもて

十五 萬の物に満し給ふ者の満つる所なり。

三 \*或は「萬の物に在りて萬の物に満ち給ふ者」と譯す

に由りて

二

三

四

五

七六

汝ら前には咎と罪とによりて死にたる者にして、こ

の世の習慣に従ひ、空中の權を執る棄即ち不従順の子らの

中に今なほ働く靈の掌に従ひて歩めり。我等もみか前に

は彼らの中にをり、肉の慾に従ひて日を送り、肉と心との欲

する任をなし、他の者のごとく生れながら怒の子なりき。

されど神は憐憫に富み給ふが故に、我らを愛する大なる愛

をもて、咎によりて死にたる我等をすらキリスト、イエス

によりてキリストと借に活かし、汝らの救はれしは恩恵によ

れり。借に甦へらせ、借に天の所に坐せしめ給へり。これキ

聖書改譯原稿用紙

リスト、イエスに由りて我らに施し給ふ仁慈をもて、其の恩

恵の極めて大なる富を来らんとする後の世々に顯さんと

てなり。汝ら恩恵により、信仰によりて救はれたり、是お

のれに由るにあらず、神の賜物なり。行為に由るにあらず、

これ誇る者のなからん爲なり。我らは神に造られたる者

にして、神の預じめ備へ給ひし善き業に歩むべく、キリスト、

イエスの中に造られたるなり。

されば記憶せよ、肉によりては異邦人にして、肉に行ひた

るかの割禮ありと稱ふる者に無割禮と稱へらるる汝ら、

主曩にはキリストなく、イスラエルの民籍に遠く、約束に屬す

別行ニ字欠

東京正誤  
ごう海キリ

汝等はもはや

る諸般の契約に與りなく世に在りて望ふく神なき者なり

まき。されど前に遠かりし汝ら今キリスト・イエスに在りて

キリストの血によりて近づぐことを得たり。彼は我らの

平和にして己が肉により種々の誠命の規より成る律法を

廢して二つのものを一つとなし、怒なる隔の中籬を毀ち給

へり。これは二つのものを己に於て一つの新らしき人に造

りて平和をなし、十字架によりて怨を滅ぼし、又之により

て二つのものを一つの身體となして神と和がしめん爲な

り。かつ來りて遠かりし汝等にも平和を宣べ、近きものに

も平和を宣べ給へり。そはキリストによりて我ら二つの

聖書改譯原稿用紙

九もの一つ御靈にありて父に近づぐ事を得たればなり。然

れば汝等は最早旅人また寄寓人にあらず、聖徒と同じき國

人また神の家族なり。汝らは使徒と預言者との墓の上に

建てられたる者にして、キリスト・イエス自らその隅の首石

たり。各々の建物彼にありて建て合せられ、彌増に聖なる

宮主の中に成るなり。汝等もキリストに在りて共に建て

られ、御靈によりて神の御住となるなり。

を副

一 この故に汝ら異邦人のためにキリスト、イエスの囚人  
 二 となれる我パウロ—汝等のために我に賜ひたる神の恩恵  
 三 の経綸は汝ら聞きしならん、即ち我まへに簡短に書送り  
 四 し如く、この奥義は黙示にて我に示されたり。汝等これを  
 五 讀みてキリストの奥義に關る(わ)が悟を知ることを得べし。  
 六 この奥義は今御靈によりて聖使徒と聖預言者とに顯さ  
 七 れし如くに前代には人の子らに示されざりき。即ち異邦  
 八 人が福音によりキリスト、イエスに在りて共に嗣子とな  
 九 り、共に一體となり、共に約束に與る者となる事なり。我はそ

聖書改譯原稿用紙

の福音の役者とせらる。これ神の能力活動に従ひて我に賜  
 八 ふ恵の賜物によるなり。我は凡ての聖徒の中のいと小き  
 九 者よりも小き者なるに、キリストの測るべからざる富を異  
 十 邦人に傳へ、また萬物を造り給ひし神の中に世々隠れた  
 十一 る奥義の経綸の如何なるもの乎を顯す恩恵を賜はりたり。  
 十二 今教會によりて神の豊ふる智慧を天の所にある政治と  
 十三 權威とに知らしめん爲あり。これは永遠よりわれらの主  
 十四 キリスト、イエスの中に神の定め給ひし御旨によるなり。  
 十五 我らは彼に在りて彼を信する信仰により臆せず疑はずし  
 十六 て神に近づくことを得るあり。されば汝らに請ふ我が汝

458

大或は「全家」と  
譯す

二六ナヤヤ

等らのために受うくる患難なやみに就つきて落膽きおちすな是これなんぢらの譽ほめ  
 なり。別行わかこの故ゆゑに我われは天てんと地ちとに在ある諸族しよぞくの名なの起おこる所ところ  
 の父ちちに跪ひざまづきて願ねがふ。父ちちその榮光えいこうの富とみに従したがひて、御靈みたまによ  
 り力ちからをもして汝あんぢらの内うちなる人ひとを強つよくし、信仰しんかうによりてキリ  
 ストを汝あんぢらの心こころに住すまはせ、汝あんぢらをして愛あいに根ねざし、愛あいを基もとと  
 し、凡すべての聖徒せいとと信にキリスキリストの愛あいの廣ひろさ、長ながさ、高たかさ、深ふかさ、  
 九の如何いかばかりあるかを覺さり、その測はかり知る可べらざる愛あいを  
 知る事ことを得えしめ、すべて神かみに満みてる者ものを汝あんぢらに満みたしめ、給たま  
 はん事をこと。

別行ニヤヤ  
以下ニヤヤ同ジ

聖書改譯原稿用紙

三  
 願ねがはくは我われらの中うちにはたらく能ちから力ちからに従したがひて、我われらの凡すべて求もと  
 むるところにある、凡すべて思おもふ所ところよりも甚いたく勝まさる事ことをなし得うる者ものに  
 榮光えいこう世々よよ窮かきりなく教けつ會かいによりて、又またキリスキリスト、イエスイエスによ  
 りて歸かへせん事ことをアアメン。

第四章

凡ての者の父  
凡ての者の上に  
凡てのものを貫き  
凡てのものを貫き  
凡ての者の内に  
在したまふ  
凡ての者の内に  
在したまふ  
凡ての者の内に  
在したまふ

一 されば主に在りて囚人たる我なんぢらに勧む。汝ら召  
 二 されたる召に適ひて歩み、事毎に謙遜と柔和と寛容とを  
 三 用ひ愛をもて互に忍び、平和の繋の中に勉めて御霊の賜  
 四 ぶ一致を守れ。體は一つ、御霊は一つなり。汝らが召に關は  
 五 ぶ一つ望をもて召されたるが如し。主は一つ、信仰は一つ  
 六 バプテスマは一つ、**凡ての者の父なる神は一つなり、神は**  
 七 **凡ての者の上に在して、凡てのものを貫き、凡ての内に**  
 八 **在し給ふ。**我らはキリストの賜物の量に隨ひて、おの  
 九 恩恵を賜はりたり。されば云へることあり。

聖書改譯原稿用紙

九 **かれ高き處に昇りし時、多くの虜をひきぬ**  
 十 **人々に賜物を賜へり**  
 十一 **既に昇りしと云へば、まづ地の低き所まで降りしにあ**  
 十二 **らずや。降りし者は即ち萬の物に満たん爲にもろい**  
 十三 **天の上に昇りし者なり。**彼は或人を使徒とし、或人を預言  
 十四 者とし、或人を傳道者とし、或人を牧師、教師として與へ給へ  
 十五 り。これ聖徒を全うして職を行はせ、キリストの體を建て、  
 十六 我等をしてみな信仰と神の子を知らず、**智識とに一致せし**  
 十七 **め、全き人、即ちキリストの満足する程に至らせ、また我等は**  
 十八 **とはや幼童ならず、人の詭計と誘惑の術たる悪巧とより起**

欺騙

様々

二三

466

二三節は  
二三節は  
二三節は

なんぢの口  
つて監督す面

五 爾様の教の風に吹き廻されず、たゞ愛をもて眞を保ち、  
 六 育ちて凡ての事首なるキリストに達せん爲なり。彼を本  
 とし全身は凡ての節々の助にて整ひ且聯り、肢體おのづ  
 量に應じて働くにより、その體成長し、自ら愛によりて建て  
 らるなり。

七 されば我これを言ひ主に在りて證す、汝ら今よりのち異  
 邦人のその心の虚無に任せて歩むが如く歩むな。彼らは  
 念くらくなりて其の内なる無知により、心の頑固によりて  
 神の生命に遠ざかり、恥を知らず放縱に凡ての汚穢を行  
 はんとして己を好色に付せり。されど汝らは斯の如くなら

聖書改譯原稿用紙

二 人爲にキリストを學べるにあらず。汝らは彼に聞き彼に  
 三 ありてイエスにある真理に根ひて教へられしならん。即  
 ち汝ら誘惑の慾の爲にこぶる前の動作に属ける善き人を  
 脱ぎすて、心の靈を新にし、真理より出づる義と聖とにて、  
 神に象り造られたる新しき人を着るべき事なり。  
 五 されば虚偽をすて、各自その隣に實を語れ、我ら互に枝  
 なればなり。汝ら怒るとも罪を犯すな、憤恚を日の入るま  
 で續くな。悪魔に機を得さすな。盗する者は今よりのち  
 盗すな、寧ろ貧しき者に分け與へ得るために手づから傷き  
 て善き業をなせ。悪しき言を一切、汝の口より出すな、た



誹謗

三

時に隨したがひて人の徳とくを建たつべき善よき言ことばを出いだして聽きく者に益えき

三

を得えさせよ。神かみの聖靈せいれいを憂うれやしむる汝あんぢらは贖あがな罪ひの日のた

三

めに聖靈せいれいにて印おしんせられたるあり。凡なんての苦にが憤いき恚い怒なり喧さわ噪が謗そ

とあれキリストあに在ありて神かみの汝あんぢらを救ゆるし給たまひし如ごとく汝あんぢら

も互たがひに救ゆるせ。

聖書改譯原稿用紙